

# 財政状態及び経営成績の分析

## I 業績の概況

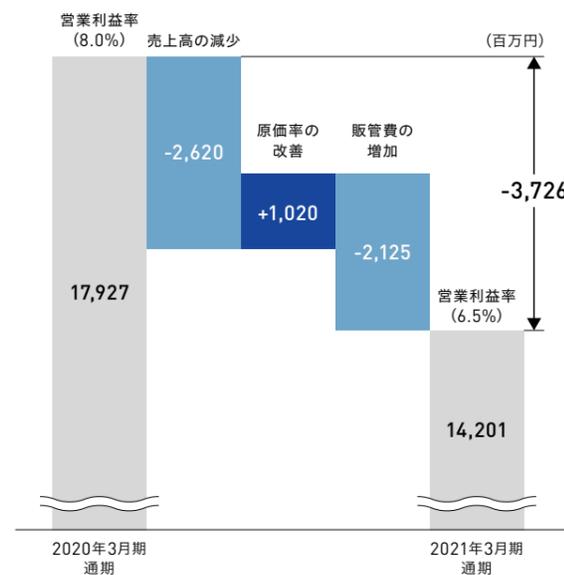
### 市場環境

2021年3月期の世界経済は、新型コロナウイルス感染症拡大により大きな影響を受けました。欧米では、段階的な経済活動の再開が進んだものの感染再拡大により再び制限を余儀なくされました。アジアでも、中国では景気持直しの動きが見られたものの、全体としては先行き不透明な状況が続きました。国内経済は景気の先行きが予断を許さないなか、第3四半期以降は、設備投資や製造業等の企業収益に緩やかな回復基調が見られました。

### 連結業績概況と損益状況

特に海外で事業活動に大きな制約を受けたものの、感染防止を背景に非接触(コンタクトレス)やセルフ化ニーズの急速な高まりを捉え、国内外でセルフ型製品の販売拡大に注力しました。また、徹底的な経費抑制に加え、新500円硬貨発行に伴う保守売上高の増加が下支えとなりました。

2021年3月期の売上高は、前期比3.0%減の217,423百万円となり、うち製品及び商品売上高は同9.4%減の138,748百万円、保守売上高は同10.7%増の78,675百万円となりました。営業利益は、原価率の改善を図りましたが、売上高の減少とAcrelecグループ等の連結組入れによる販売費及び一般管理費の増加により同20.8%減の14,201百万円となりました。経常利益は同9.8%減の14,115百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同32.6%減の6,044百万円となりました。



(百万円)	2020年3月期		2021年3月期		前期比	
	通期	売上高比率	通期	売上高比率		
売上高	224,170	100.0%	217,423	100.0%	-6,747	-3.0%
保守売上高	71,099	31.7%	78,675	36.2%	7,576	10.7%
営業利益	17,927	8.0%	14,201	6.5%	-3,726	-20.8%
経常利益	15,657	7.0%	14,115	6.5%	-1,542	-9.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	8,961	4.0%	6,044	2.8%	-2,917	-32.6%
EBITDA*	31,865	14.2%	29,410	13.5%	-2,455	-7.7%

為替レート	ドル		ユーロ	
	2020年3月期	2021年3月期	2020年3月期	2021年3月期
	109円	106円	121円	124円

\*EBITDA=営業損益+減価償却費+のれん償却費

## II セグメントの概況

### セグメント概況

#### ▶ 金融市場

主要製品である「オープン出納システム」や窓口用「紙幣硬貨入金機」の販売は好調でありました。また、新500円硬貨発行に伴う改造作業等により保守売上高が増加いたしました。これらの結果、増収増益となりました。

#### ▶ 流通・交通市場

新500円硬貨発行に伴う改造作業等により保守売上高が増加したものの、主要製品である「レジつり銭機」の販売は大口需要の反動により低調でありました。また、「券売機」の販売も飲食店やレジャー施設における需要が減少したことにより低調でありました。これらの結果、減収減益となりました。

#### ▶ 遊技市場

主要製品である「カードシステム」や「賞品保管機」等の販売はホールの設備投資抑制により低調でありました。これらの結果、減収減益となり営業損失を計上しました。

#### ▶ 海外市場

米州及び欧州では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、金融市場向け「紙幣入金機<RBGシリーズ>」の販売は低調でありましたが、流通市場向け「紙幣硬貨入金機<CIシリーズ>」の販売は順調でありました。一方、アジアでは、「紙幣入金整理機<UWシリーズ>」の販売が前期並みでありました。買収したAcrelecグループの損益が第2四半期以降連結範囲に加わり、これらの結果、増収減益となりました。

(百万円)	売上高				営業利益			
	通期		前期比		通期		前期比	
	2020年3月期	2021年3月期			2020年3月期	2021年3月期		
海外市場	103,621	104,765	+1,144	+1.1%	9,780	3,836	-5,944	-60.8%
金融市場	42,262	49,877	+7,615	+18.0%	3,314	9,861	+6,547	+197.6%
流通・交通市場	52,487	48,789	-3,698	-7.0%	5,198	2,883	-2,315	-44.5%
遊技市場	20,753	11,020	-9,733	-46.9%	1,998	-290	-2,288	-%
その他	5,045	2,969	-2,076	-41.1%	-2,364	-2,089	+275	-%
合計	224,170	217,423	-6,747	-3.0%	17,927	14,201	-3,726	-20.8%

### 地域別概況

欧米では新型コロナウイルス感染症の影響により金融市場は苦戦しましたが、流通市場ではセルフ型レジつり銭機が増加しました。Acrelecグループにおいては、各

国での事業展開が当初計画より遅延したものの、第3四半期以降の業績は徐々に回復しました。アジアにおいては、金融市場向け製品の販売は前期並みとなりました。

(百万円)	通期		前期比		現地通貨ベース
	2020年3月期	2021年3月期			
米州	38,189	34,741	-3,448	-9.0%	-6.7%
欧州	43,313	49,483	+6,170	+14.2%	+11.6%
アジア	14,802	14,153	-649	-4.4%	-
中国	5,694	5,521	-173	-3.0%	-3.5%
OEM	7,316	6,386	-930	-12.7%	-12.7%
合計	103,621	104,765	+1,144	+1.1%	-

### Ⅲ 財政状態について

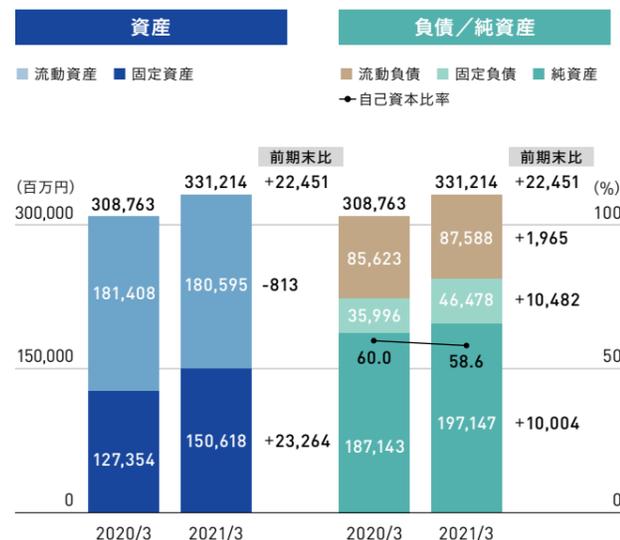
#### 資産、負債、純資産

総資産は、退職給付に係る資産、のれん、受取手形及び売掛金、顧客関係資産等の増加により前期末から22,451百万円増加し、331,214百万円となりました。

負債は、長期借入金、繰延税金負債の増加に加え、IFRSを適用している在外連結子会社の非支配株主に付与された売建プット・オプション負債の計上により、前期末から12,447百万円増加し、134,067百万円となりました。

純資産は、退職給付に係る調整累計額、為替換算調整勘定の増加により、前期末に比べ10,004百万円増加し、197,147百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前期末の60.0%から1.4ポイント低下の58.6%となりました。

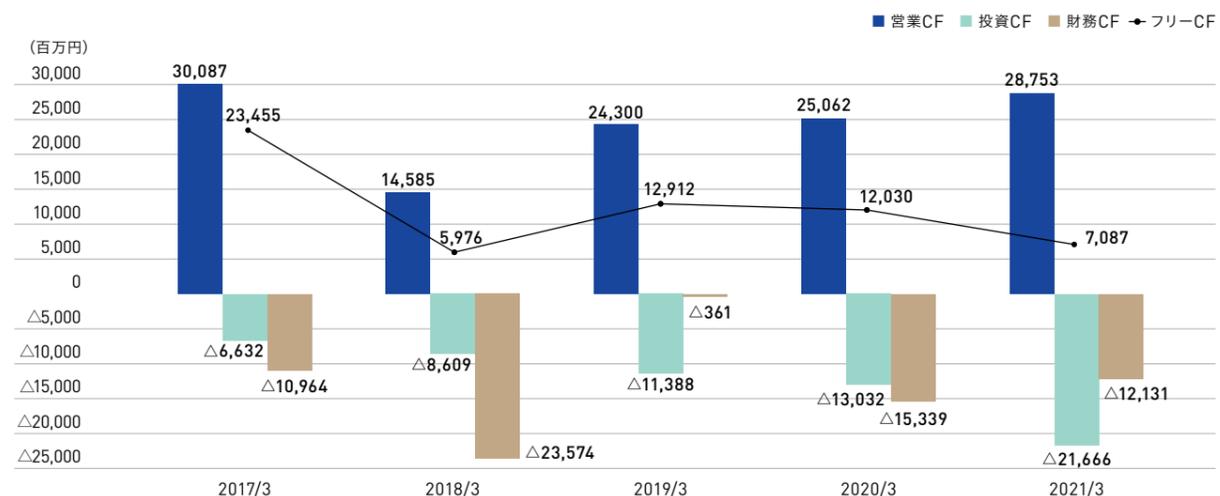


### Ⅳ キャッシュ・フローの状況／設備投資

#### キャッシュ・フローの状況

2021年3月期の現金及び現金同等物(以下「資金」)の残高は、前期末に比べ4,047百万円減少し、66,875百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、28,753百万円の収入(前期は25,062百万円の収入)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益、減価償却費、のれん償却



額等の資金の増加によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、21,666百万円の支出(前期は13,032百万円の支出)となりました。これは、主に製品の製造に係る金型・治工具類等の有形固定資産の取得ならびにAcrelecグループの株式取得によるものです。

以上の結果、フリーキャッシュ・フローは7,087百万円の

収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、12,131百万円の支出(前期は15,339百万円の支出)となりました。これは、短期・長期借入れによる収入があった一方で、短期借入金の返済や配当金の支払い支出等によるものです。

#### 設備投資

当社グループは、企業価値の向上に資する成長のための投資を積極的に推進しております。2021年4月よりスタートした「2023中期経営計画」の3年間累計では、設備投資と事業投資で総額750億円を計画しており、そのうち300億円をコア事業の基盤強化を目的とした設備投資に充当する予定です。

2021年3月期は、新製品生産用の金型・治工具類1,146百万円や基幹システム再構築に係るソフトウェア1,051百万円など、研究開発活動、生産性向上活動、販売・保守活動を中心に9,739百万円(前期比8.9%減)の設備投資を実施しました。



### Ⅴ 税務ガバナンスへの取組み

当社グループはグローバルに事業を展開する上で、事業活動を行う国や地域において納税義務を適正に履行することは、企業が果たすべき最も基本的かつ重要な社会的責任の一つと考えます。こうした認識の下、税務申告および納税においては、各国税法を遵守のうえ、適正な申告を

行って納税義務を果たすとともに、税務問題の経営陣への報告、グループ内でのタイムリーな情報共有および従業員への税務教育などを通じて、グローバルな税務ガバナンス体制の維持に努めています。